



表紙の説明

「けあらし」は、気象用語では放射冷却現象で見られる「地霧」と呼ばれ、水の温度より、外気が冷たい時に、海水からの水蒸気が発生して霧状になるものです。

黄金岬での「けあらし」は、留萌川の水が黄金岬周辺まで流れ、この水から水蒸気が発生するもので、潮の流れで沖



南防波堤から黄金岬

見の海にかけて見られます。とくに、黄金岬の場合は「港とけあらし」「暑寒連峰とけあらし」の組合せの景観が優れているのが他の地方にはない魅力です。

昨年の冬は数日間見ただけです。朝早く起きて、一度見に行ってください。



留萌 第六十一回 いま・むかし

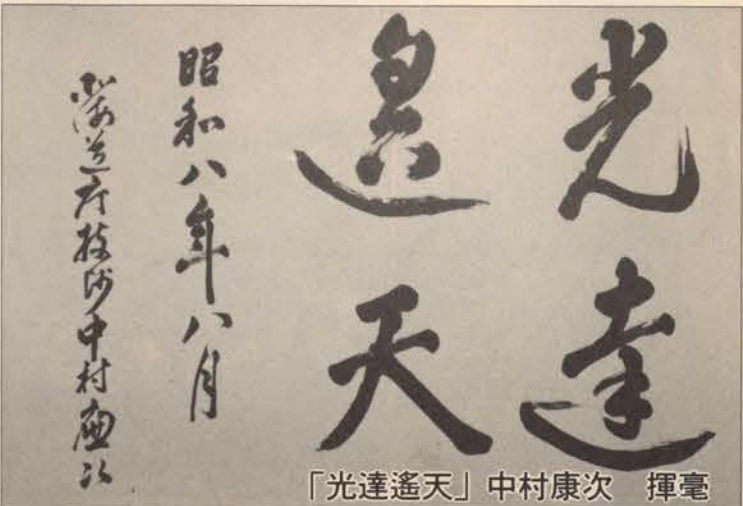
堤頭題字

千望台の五十嵐徳太郎の銅像の前に、四つの石碑が建てられている。これにはそれぞれ「光達遥天」、「千紫萬光」、「光波萬里」、「青灯擁内港」と刻まれている。これは元、それぞれ留萌港の北防波堤灯下の壁面、内港西突堤頭、南防波堤頭港灯下、東突堤頭下に刻まれていたものである。戦後の留萌港修築により防波堤が延長されたりして現在では防波堤にその文字を見ることは出来ない。

この四つの題字は昭和八年に二十四年という長い歳月をかけて完成した留萌港の完成記念に刻まれたものである。築港完成時の築港所長であった小松悌治の発案によるものであった。留萌築港という難工事が幾多の人々の血と汗の

結晶であったことを永久に記念しようと考えたのである。特に留萌港の修築事業は黎明期の港湾技術の集大成とでもいえる事業であったため、留萌港に関係した技術者たちに題字を書かせたのである。「光達遥天」は時の道庁河港課長中村康次、「千紫萬光」は三代所長林千秋、「光波萬里」は初代所長で小樽築港事務所長を兼ねていた伊藤長右衛門、「青灯擁内港」は小松自らが刻んでいる。

「光達遥天」は中村康次自らその出典を語っているが、彼が若いときに読んだ楠本如雲作コロンブスのアメリカ発見の詩をもじったものであるという。「磁針不誤達遥天」を灯台下の題字であることから、「光達遥天」としたとしてい



「光達遥天」中村康次 揮毫

ちびっこギャラリー

お子さんの絵を募集しています。 ☎2-1801内線293までご連絡ください。



「メリークリスマスin1991」(留萌小2年)

大河内 蘭ちゃん(本町4)

私の家のクリスマスツリーとサンタクロースを描きました。今年のクリスマスから正月は、沖縄に行きます。